

2015年度教師海外研修(エルサルバドル) 研修報告書

学 校 名	愛知県立名古屋特別支援学校	氏 名	伊藤 篤志
-------	---------------	-----	-------

1. 現地研修に対する各自の目的 とその達成度

(特に、現地研修の経験を生かす授業実践に資することについて)

① 日本の良さの再発見

豊かになった日本と貧困層の多いエルサルバドルとの違いを見聞きして、日本の良さを再発見し、日本の子供たちに再認識してもらい授業を実践したい。エルサルバドルの治安や環境、教育を見て、「ありがたい」という言葉しか出てこなかった。この「ありがたい」という気持ちを日本の子供たちや親たちに伝えたい。

② 環境問題

「きれいな国！日本」というキャッチコピーがあったように思う。「きれい」には、いろいろな意味が含まれる。環境的にきれい、平和できれい、洗練されてきれい、心がきれいなどいろんな「きれい」があるが、きれいな日本を守りたい。どうしたらいいか子供と一緒に考えたい。

2. 訪問国から学んだこと (気づいたこと、わかったこと、大切に思ったことなど)

(1) 柱1「訪問国に肯定的に出会う」という観点から

エルサルバドルの家族観は大変参考になった。エルサルバドルで出会った人たち(大人も子供も)誰もが一番大切にしているのは「家族」と答えていた。日本で家族というと、ほとんどが一緒に住んでいる人を指す。もちろん家族と離れて大学や就職している人たちも家族の一員であるが、父親の兄弟・母親の兄弟などもっと大きな意味での家族を指すことはない。しかし、エルサルバドルでいう家族は、この大きな家族を指し、その大きな家族が強い絆でつながっていることに驚いたし、うらやましくも感じた。日本は核家族化により家族の絆も薄れ、地域のコミュニティも崩れている現在を考えると、近代化によって無くしたものの大きさを感じる。今後、エルサルバドルも近代化に進んでいくが、便利だけを追求する近代化では無く「家族」「地域」のコミュニティを大切にする文化を守ってほしい。

(2) 柱2「日本と訪問国とのつながりや同一性を理解する」という観点から

日本で教育に関わる人間として、改めて教育の大切さを痛感した。エルサルバドルの課題は治安と環境問題だと思う。治安も環境も整えば、自然豊かで人の温かいエルサルバドルは観光で外貨が稼げる国になると思う。外貨が稼げるようになれば経済が回り始め、生活が豊かになる。生活にゆとりができれば学校の施設設備も整備され、誰もが学校に通いレベルの高い学校へも進学できるようになると思う。教育が先か経済が先か、どちらも大切であると思うが、小さい時からしっかりと教育が受けられれば、治安の改善や環境の改善に寄与できる人材が育つと思う。国として教育に力(お金の投入)を入れられるように、そのためにはエルサルバドルが経済的自立できるように豊かになった日本が経済的な援助ができるといいと感じた。

(3) 柱3「共通の課題について共に考え・共に越える」という観点から

恵まれている日本について考えさせられた。治安・環境・教育などすべての面において日本はエルサルバドルより恵まれている。しかし、恵まれていることに慣れてしまい気づかない日本はこれでいいのかと疑問を持

った。

私たちは、戦後生まれで日本での戦争の事実をほとんど知らないし、日本では、戦争の名残もほとんど無くなっているし、戦争の語り部もいなくなっている。現在、戦争を知らない者が教育の現場に立っている。エルサルバドルは内戦の爪痕がまだ色濃く残り、国自体が内戦の負の遺産を引きずっている。しかし、内戦の悲劇を知っている人が減ってきている事も事実である。エルサルバドルで見た治安の悪さや劣悪な環境を肌で感じて、平和の大切さとありがたさを痛感した。この気持ちを今の子供たちに伝える使命があると再認識した。

3. JICAの国際協力事業の「良い!と思ったところ」と「今後あるといいなと思う視点」

JICAの活動報告や現地の青年海外協力隊の方々との話合いで印象に残っているのは、一つ目は「現地のルールで現地の方法で地域の人たちと一緒に考える」です。日本で成功したやり方を無理矢理現地に持ち込むのではなく、現地の人々と一緒に考え、現地で受け入れられる方法で改善していく手法である。とても時間がかかり日本での成功例を知っていればいるほどジレンマに陥る方法をじっと待ちながら実践していくことは、忍耐力がいる仕事だと感じた。

また、「見せる・見守る・任せる」という言葉も印象に残っている。まず、自ら実践して汚い仕事も苦しい仕事も率先して行うのは大変だと思う。その姿を見せた上で見守るのも時間と忍耐のいる方法だと思う。

最後に「企業や国が物質の豊かさ(缶・ペットボトルなど)を持ち込むなら処理の方法も一緒に持ち込んでほしい」その通りだと日本人として反省した。

4. 訪問先ごとの「感じたこと」や「学んだこと」

※別掲

5. 印象に残る写真2点とその解説

●写真1… [BAN_2913]

◇キャプション： 初めての大使館

◇解説文：エルサルバドル大使館に表敬訪問した。大使館に入るのは、生まれて初めての経験です。大使は気さくに奥様の手作り和菓子を振舞ってくださった。



」

●写真2… [BAN_3211]

◇キャプション：最初に出会った子供達

◇解説文：エルサルバドルに入って JICA の活動をいろいろ視察する中で、三日目の防災活動の視察で、初めて子供達と接することができた。やっぱり子供達となるとホッとする。



6. 来年度参加する先生へのアドバイス（持ち物、必要な準備、学びの視点、注意事項など）

食事は、あまり心配しなくても日本人の口に合う物が多い。ただし、ホテルの中から出られないので、その範囲での食事に限って。水は要注意。

自分の日本での生活（学校の写真や家族の写真、食生活など衣食住）を理解してもらったり、説明するために写真を用意しておくが良い。

7. その他全般を通じての感想・意見など

一生の思い出になる 13 日間だった。美しい国で国民は優しく勤勉であり愛すべき国ではあるが、そこに暮らす人々と治安や環境とのバランスが悪く、不安定な開発途上国の実態を目の当たりにして、今ままで、何も考えず生きてきたことを後悔した。もっと若い時にこの経験をしていたら人生観が変わっていたように思う。でも、まだ遅くない。がんばろうという勇気を与えてもらった研修だった。

また、若い仲間ができた。仕事場では上司として煙たい存在になりつつある立場で、この研修中は若い仲間に囲まれ平等に対等に扱われたことが、とてもうれしかった。

以上